

都留第二中学校だより

# 日新

校訓 日新  
学校教育目標  
・美しい心  
・輝く知性  
・たくましい体

都留第二中学校学校だより

NO14

平成29年11月14日(火)  
文責 小俣 一夫

## 来年度の生徒会役員選挙 《立合演説会・即日投・開票11/16(木)》 リーダーについて考えよう。

### 都留二中が誰よりも一番好きな人！

10月30日に平成30年度の都留第二中学校生徒会役員選挙の立候補が締切られ、現在校内において選挙活動が展開されています。立合演説会・投票・開票は11月16日(木)行われます。来年度の生徒会の方向性を決める、とても大事な選挙となります。自分たちのリーダーとして誰が最もふさわしいのか。友だちに流されず、各自が自分のしっかりとした判断の下に責任ある投票をしてほしいと思います。

大人の社会においてリーダーと呼ばれる人は、洞察力を持っています。人から学ぶことができ、社会の変化を予測するだけでなく、組織において道徳観を持って、より誠実になるよう努力をしていると思います。このことは、中学生においても、そんなに変わるものではないでしょう。

「リーダーの特質」としては、次のような資質や能力が要求されます。



感情の安定性	欲求不満やストレスに耐えられ、精神的に大人であること。
支配力	時には競争力があり、決断力も持っており、必要であれば進んで障害も乗り越える。
熱心さ	表現力が豊かで、エネルギーが豊富である。
道徳心	義務感を持ち、物事に対し高い基準を持って最善を尽くす。
大胆さ	危険を冒すことを恐れず、とても積極的で、精神的にとってもタフである。
現実的	実践的、論理的で困難にも進んで立ち向かい冷静である。
自信	自信と快活さを持ち、誤りや失敗などでくじけることは、めったにない。
決定力	誠実さを持ち、注意深く物事を決定したり、特定の行動を決めたりできる。
チーム志向	チームワークを大切にし、進んで結束を強める関係を築くことができる。
感情移入	人の立場で物事を考えられ、時には感情移入で、泣いたり怒ったりすることもある。
カリスマ性	全校が夢中にするような計画を立て、強い感情を引き起こさせることができる。

### リーダーの大切な資質のひとつは 都留二中に対する思いやりと愛情が誰よりも深いこと！

生徒会や学級会に限らず、グループのリーダーに必要なものは、理屈でも能力でも結果でもなく、「責任」ではないでしょうか？そして、人間の責任感を自主的に起動させるものは他者への愛情にほかならないと思います。この思いやりと愛情こそがリーダーとしての最も大切な資質であると思います。

グループの中で、最も仲間への愛情が深い人、思いやりを持っている人こそが、リーダーにふさわしいのです。いかに能力があり、正しいことや道理、理屈がわかっている、仲間を見捨てるような人や勝ちにばかりこだわるような人ではいけないと思います。集団において、「問題を解決する。」とは、「人を動かす。」ことを意味します。そのためには、仲間とコミュニケーションをとらなくてはなりません。仲間と一緒に行動し、その中でのつながりや絆を大切に、必要であれば、仲間を人間的に変えていき、成長させることも考えられなくてはなりません。

リーダーの最終的な仕事は、「仲間全員をリーダーに育てること」ではないでしょうか？ 日頃を振り返ってしっかり考えてほしいと思います。



選挙活動の様子

## 中学生の学習規律を自分たちに生かせ！

～宝小6年生がキャリア教育で1年の授業を見学しました。～

10月26日(木)の午前中に宝小学校の6年生15名が本校に来てくれました。中学校1年生の授業の様子を見て、半年後の自分の姿と重ねて、中学校での生活や学習をイメージすることをねらいとして実施しています。「中1ギャップ」という言葉があるように、小学校から中学校に進学する段階で、学校に対する不適応を起こす生徒が多く見られています。そこで、中学校の授業を見たり、中学校の教員が小学校へ出前授業に出かけたり、その予防対策に取り組んでいます。



中学校の勉強について質問する堀内君

～キャリア教育とは～

文科省はキャリア教育を「望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し主体的



真剣に授業を聞く6年生武井君

に進路を選択する能力・態度を育てる教育」と定義しています。何やら面倒な言い回しですが、現在の子供たちは昔に比べて、将来の仕事のことを具体的に思い描くことが難しくなっています。周りに仕事をしている大人を見る機会が少なくなり、お父さんやお母さんも通勤する「会社員」では、職業について具体的なイメージを持ってと言っても無理なことです。そこで、小さいうちから「学ぶこと」「働くこと」「生きること」を意識させ、理解を深める必要があるのです。

この日ばかりは、1年生が先輩としての自覚を持って、4月に入学してくる後輩にしっかりとした授業の様子を見せていました。

### 座禅を通して自分の心と向き合う時間を持つ！

2年生は11月10日(金)に前段として1・2組が、都留市の「宝鏡寺」で座禅体験を行いました。生徒たちに、日常の学校生活の中で、何も考えずに目を閉じて、心を無にする時間はあるでしょうか。日々、生徒たちは時間に追われる中で生活し、分刻みで6時間の授業を行っています。きっと家に帰っても塾や習い事に急いで出かけ、気がつくとなら寝時間になっているのではないのでしょうか？今回の寺で心を落ち着けて、自分を振り返ることはとても貴重な時間であったと思います。



もう無理 足しびれてきた！

なお、3・4組は11月17日(金)に実施する計画です。

### 「生きることを支える」言葉に出会う …だから読書がいいのです。

私たちは、人生の中で数え切れない人たちと出会います。その一人一人を全て記憶することはできませんし、覚えようとも思わないかも知れません。「人は人生において、出会うべき人と出会う。それも遅くもなく早くもなく」この言葉は、私たちは、望む望まないに関係なく出会うべき人とはどこかで必ず出会うということだそうです。悩み、迷い、悲嘆にくれ、落ち込み、自信をなくしているときに、それに叶うような答えやヒントをくれる人にどこかで出会っているという意味なのだと思います。他力本願でも、他者依存でもありません。その人との出会いを私たちが生かしているかは別なのです。人の心がすがるように何かを求めているときに、ピッタリとはまるような言葉があるものです。それが、「生きることを支える言葉」なのだと思います。今の自分の思いを伝えたい。でも、うまくできない。そんなとき、「この言葉は・・・この文章は・・・」求める心の隙間に入り込んでくる言葉が必ずあるのです。そんな言葉を与えてくれるのが、「読書」です。本を手にとって「読みたい」と思う本だけでもいいと思います。深く考えず、読み終わった後に、いくらかでも何かが残ればいいのではないのでしょうか

先日読んだ雑誌に「読書は、生きることを支える言葉と出会うため」という文章に出会いました。心に残る言葉と出会えることは、たとえようなない満足感や幸福感につながります。言葉を自分の体験と重ねることで、自分の学んできたことが整理されていくような気がします。子どもたちの心は、何かのきっかけで大きく動きます。その奥にある自分でも気付かないスイッチは「言葉」によってある瞬間に押されるような気がします。

季節は読書の秋です。秋の夜長は、ゲームやスマホのスイッチを切って、自分の心のスイッチを押してくれる本との出逢いに期待して読書をしてみませんか。



放課後の読書のひととき



放課後の図書室の一コマ